

<入れてよいもの>

野菜クズ（できれば干したのもの）・魚・肉・卵の殻・魚や肉の骨・貝殻・枯葉など

<入れないほうがよいもの>

★水分の多いもの（スイカの皮、茹でた後のタケノコの皮、大量のご飯、濡れた野菜クズなど）：
虫や悪臭の素になる為。

★塩分の特に多いもの（大量の糠床など）： 堆肥の塩分濃度が高くなり、栽培に使用できなくなる為。

<堆肥として使える熟成度の目安>

生ごみに混じって入っている種から芽が出ていたら完熟です。

場合によっては、芽が出る種が入っていないこともあるので、その季節に発芽する種を播いてみて発芽すればOK。 未熟な堆肥は植物を痛めることがあるので、要注意です。

<困った時には>

内部の水分や窒素分が過剰になると、虫がわいたり、悪臭が出たりします。そんな時は乾いた土や、籾殻くん炭を沢山混ぜ込んで良く攪拌すると改善します。（石灰を虫にふりかけるのも、とりあえず死滅させるのには有効です。）

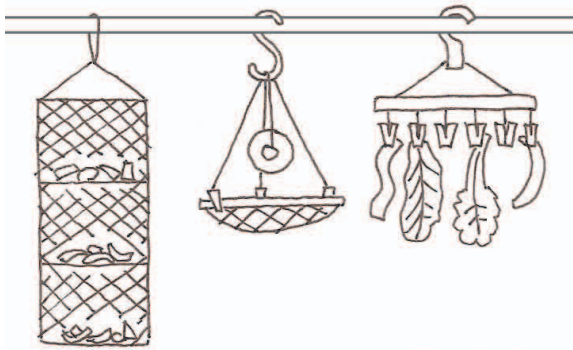
触りたくない程虫が大発生してしまったら、表面にたっぷりの乾いた土をかぶせて数ヶ月休ませます。この間は空いているポリバケツに生ごみを投入します。休ませたポリバケツの中身は数ヶ月後よく攪拌し、水分の状態が良ければ生ごみを投入して使用を再開します。まだ水分過剰なようなら、乾いた土を追加して攪拌し、さらに休ませます。

虫は数ヶ月経つと寿命を終え死んでしまうので、死骸もまた堆肥の一部になります。



*休ませているポリバケツは保温と紫外線による劣化防止の為、黒いポリ袋等で覆っておくことをおすすめします。

<野菜クズの干し方のコツ>



☆雨の日や寒い日などにはあまり乾きませんが、何日も吊るしておくとかびが生えるので、「一日だけ」に割り切って干すと良いと思います。

☆キャベツの外葉、大根の皮、夏みかんの皮、スイカの皮の緑の部分などは乾きにくいですが、ザルではなく角ピンチなどで何日も干すとカラカラにできます。

★バナナの皮、ぶどうの皮、スイカの赤い部分、メロンの皮など、甘いものは、すぐに小バエが湧くのでおすすめできません。スイカの皮やメロンの皮を干したい場合は、甘い部分を完全に切り取って干すことをおすすめします。

下の写真は、9月の晴れの日
に約24時間干した野菜クズですが
42%の脱水が出来ました。



165g

95g

<野菜クズ干しカゴ（上図中央）の作り方>

右図の様に、浅いザル・ヒモ・洗濯バサミ・Sカン・CDやDVD（鳥よけ）を組み合わせると、簡単に作れます。風通しが良く雨のかからない軒下などに吊るして使います。

